

Title	芥川龍之介「手巾」の原話			
Author(s)	岩井, 茂樹			
Citation	日本語·日本文化. 2025, 52, p. 128-111			
Version Type	VoR			
URL	https://doi.org/10.18910/100662			
rights				
Note				

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

(研究ノート)

芥川龍之介「手巾」の原話

岩 井 茂 樹

はじめに

話が芥川の創作なの ものとされている。 のような長編は書かなかった。短編小説だけしか遺していない。いくつかの作品は、 芥川龍之介は近代日本を代表する作家の一人である。その人気はいまだ衰えることを知らない。 か、あるいは何か原話のようなものがあるのか、よくわかっていなかった。 彼の代表作「蜘蛛の糸」や「羅生門」がその実例である。ただ、 小説 何らかの原話を基に創作された 「手巾」については、その 彼は師の夏目漱

本稿ではその原話と見られる新渡戸稲造の言説 (挿話と談話)を二つ紹介し、それと芥川の「手巾」との比較を行

ルビは最小限にとどめた。また二字以上の繰り返し記号については、それに該当する文字を当てたことを最初に断っ (以下『全集』とする)、また他の書物も含め引用に際しては、読みやすさを考慮し、 なお、「手巾」の引用に際しては、すべて『芥川龍之介全集』巻第一(岩波書店、 旧漢字を常用漢字に改めた他 一九九五年)から行ったこと

ておく。

小説「手巾」の舞

その梗概を『芥川龍之介全作品事典』 「手巾」 は 一九一六年(大正五)一〇月一日発行の『中央公論』 から引用しておこう。 誌に掲載された作品である。 後に行う比較のため

グの作った 作っこ 信 あ りしめながらふるえる婦人の手を見つけ、 のだった。先生は、婦人の微笑さえ浮かべる平静な態度に不審を感じる。だが、ふとテーブルの下に、手巾 東京帝 奉する武士道にかなうものでもあるように思えた。先生は倫理的な満足を抱くが、 る日先生は、 日本の精神的堕落を救済するのが望みである。その助けとなるのは、日本の武士道だと、先生は考えてい 俳優の常套手段型のひとつだというのである。先生の心の調和は乱れずにはいられない。 国法科大学教授、 劇 術 の中に、気になる一節を見つける。 教え子の母、 長谷部謹造先生は、 西山篤子の訪問を受ける。 感情の激動を抑えていることに気づいた。この婦人の 東西文化の相互理解を進める橋梁にならんと志している。 顔は微笑しながら手巾を裂く二重の縁起は臭味というべきも 婦人は、 かねてから入院していた息子の死を報告に来た 読みかけのストリンドベ 態度は、 また、 先生 を握 近

記号的意味から読み解こうとするものや ("")、「型」「臭味」などに注目した論 点から論じられてきた⁽¹⁾。 れはもはや定説化している。 ただし、その原話については、まだ確たるものが発見されているわけではない。 ここで主人公とされる長谷川謹造は、 その他、近年では作品に登場する「岐阜提灯」 辞書にもあるように、 芥川自身の証言もあって、 主にこの作品は「文明批評」と「新渡戸稲造と武士道」 新渡戸稲造をモデルとした人物とされており、こ Þ <u>D</u> 「朝鮮団扇」、さらには「手巾」などの が 展開されているの が現状である。

二 久米正雄の証

言

この 小説は久米正雄によると、 久米がその素材を与えたものだという。 それを見てみよう。

のです。 (五) るといつたら、「僕にそれをくれないか。中央公論から頼まれて来てゐるんだ」といふ訳で僕が話してやつたも のです。新渡戸さんのことを書いたもので、一宮で雑談してゐるうちに、僕がかう云ふものを書かうと思つてゐ のが『手巾』です。この『手巾』といふのは、一宮にゐて書いたものですが、元々、あの材料は僕のものだつた 『芋粥』を『新小説』に載せ、次で『中央公論』から何かかいてくれるやうにと頼まれたので、 書いてやつた

というものだ。これによって、この久米が一宮にいた時に芥川に話したものが、 たそれは新渡戸稲造のことを書いたものであることがわかる。 小説 「手巾」 の基になっており、 ま

なったと思われる新渡戸の話を新しく一点発見することができたので、それを後に紹介する。 ただし、先述したように、この久米の話がどこから来たものかは、 未だ不明である。 筆者はこの度、 この 原話

に

三『世渡りの道』の挿話

よって紹介されているもの(*)だが、 新資料を紹介する前に、 まずは新渡戸の著書 比較を行なうため再掲しておく。 『世渡りの道』 に載る逸話からである。こちらはすでに相川直之氏に

向ひ なる悲哀を我慢した、克己の努力にお気付になりませんでしたか。」といふて乙婦人の説を反駁し、 巾を、 女の口には笑を含み、 言は 爽 であつたが、眼には涙が溢れて居るのにお気がつかなかつたか。 として近頃最愛の子供を失ふたことを述べ、日本風に笑ひならが、この不幸を物語つた。 人が見れば斯の如き大なる差異がある。 るのでらあうか。 子供を失ふた如き真面目なる事実を、笑ひながら語るとは合点が行かぬ。 日本婦人の挙動を批判して居た。 或日本婦人が外国の婦人を訪ふて其安否を尋ねた時、 僕がこの外国婦人を訪ふた。すると、曩の外国婦人は折柄傍に来合せて居た同じ外国婦人と、 「日本人の笑は深き研究を要するものではありませんか」といふた。 頻りに絞つて居たのにもお気付になりませんでしたか。 どうも薄情の極の様に見へる」と。之を聞いた甲夫人は 乙婦人は云ふ「私はどうも合点が行かん。 婦人は久しく無沙汰に打過ぎたことを謝し、 額に青筋を走らせる様にして、張り裂けんば 同じ笑でも其の内容に至つては 一体日本婦人には人情といふもの 「あなたは御覧にならなかつたか、 日本の女は真面目も真面目 婦人が 帰 其申訳 手に持つた手 その不幸なる 転じて僕に 一つて 間 自分の 見る かり があ 理 Ł 彼 由

る。 自分を庚し得るものでない。 長く欺くことは到底不可能である」とある。 とは易い。 笑を以て其真情を庚さんとすることは、果して永久に出来るものであるか否か。 併し相手が如何に愚なる者にしても、 又暫くの間多数を欺くことも出来る。 永く庚し遂げるものでない。リンコンの言に 所謂誤魔化しは永遠的性質を帯びるものではない。 然らざれば長い間僅の人を欺くことも出来る。 夫は相手によつて大に異な 一時 人は決して長く 併し多数の人を 僅の人を欺くこ

この引用 部 から分かるように、 この話の主題は感情を隠し続けることができるかという点にある。 その例として日

本婦人は登場する

四 雑誌『ニコニコ』の談話

今では中々入手しにくい資料であるので、出来る限り多く、 次に見るのは 雑 誌 に載った新渡戸の談話である。こちらは今まで指摘されたことのない資料である。 煩を厭わずに引用しよう。

であつた妙なニコニコの実例といふのは外でもない」と言ってから、次のように語り出した。 談話のタイトルは 「日本人のニコニコ振 (中)」である。 法学博士・農学博士と紹介されている新渡戸 は 私 \mathcal{O}

だ、① ねて来た、之は以前からの知合であるが、 私は北海道の農学校に居た時の事、丁度外国人の客が二三人来て種々話をして居た処へ、一人の日本の婦 人がニコニコして其無沙汰した理由を語り出したが、その理由たるやニコニコ処か、 少時顔を見せなかつたので、其無沙汰を謝するために来たのだ、 非常に悲しむべき事件なの 人が尋 其婦

ここは、 おおよそにおいて、『世渡りの道』 と同じものだ。 先を見てみよう。

子がない。 ろいろ手を尽しましたけれど、たうたう、と言葉を切つたが、 此方でもそれは大変な事であつた、さぞお力落したことであらうと弔みを述べると、 した、 無沙汰をしましたといふのだ、それで顔を見ると依然としてニコニコだ、併し、子供が死んだといふのだから、 何を謂ふかと思ふと、実は小供が病気に罹りまして、 葬式やら法事やら取り込んで居りましたので、是非伺ひしやうしやうと心掛けて居りながら、こんなに御 サア其処で問題が起つた、其処に居合はした西洋人は、 種々手を尽しましたのですけれど、遂それが亡くなりま 顔を見ただけでは少しも悲みに堪 異口同音に、どうしても今のニコニコは 婦人は依然ニコニコしてい へないとい

鳥渡考へさせられた。(九)

ない、 体どうい 自分の子供が死んだといふ事は、 、ふ心理 状態から来るのであらう、 最も悲しむべき事件であるのに、 どうも吾々欧羅巴人には了解ができないといふ論だが それを語るにニコニコして居るとは これには

さきほどの記事に比べ かなり詳細な描写である。 ここからが注目すべき箇所である。

もあらうが、また一方には死んだのは自分の子であるから自分としては 寔に悲しい事であるけれ共、今日 らうと思ふのだ(二〇) 習慣を異にする処からあゝいふ鳥渡見ては可笑しい様なニコニコをする事があるのだと、妻が大いに日本通を振 悲しみは押へられず、 ギュツと握り絞つて居た、 見れば、今のニコニコが解釈出来るのだ、 すると家内が、 いうことには冷淡な傾きがあつたが、今日では時代も異つて来て居れば、日本人の風俗習慣も異つて来て居る 廻した事があつたが、 して、自分の悲みを人に嫁するのを避けて居るのであらう、併し人情は人情であるから顔はニコニコしても胸 に居る人にとつては何等の関係もない、 て居たので手迄は注意しなかつたが、さすがは女で、其辺迄気がついたものと見える、 際的 関係も違つて来て居るのであるから、 アノ手を見たか?といふんだ。さう謂はれて見ると、 この笑を隠すといふ気風は女ばかりではない、 自然にあの両手に顕はれたのだ、日本婦人は極めて状にこまやかであるが、 あれは日本の婦人のたしなみとして喜怒哀楽を妄りに外に現はさないといふ処からで 赤の他人である、其人達から見るとつまらぬ子供であるといふ辺に遠慮 顔は成程ニコニコしては居たが、両手には非常に力を籠めて、 日本人もニコニコという事に就いて大いに考へて見る必要があ 男にもある事で、 私も、 談話の方へ気を取られ 家内の 昔から一体にニコ V S には て顔ば 外国人と風俗 あ 手巾 ニコと カコ ?り見 此 手

という。ここでは彼の妻だけが顔ではなく、 いる点が、先ほど示した『世渡りの道』とは異なっている。また先ほどは 妻になっている点も表現が異なる。 手に持ったハンカチにも目を止め、 「甲婦人」となっていたのが、 その意味を彼女なりの解釈で述べ 新 稲 7

も隠せず、それが自然にハンカチを握る両手に表れたのだと述べたとしている。 分の子の死という悲しみを人に転嫁させないようしたのだろうという。だが、同じ人間であるから悲しさはどうして についても、 (小泉八雲:一八五○~一九○四年) が「日本人の微笑」という随筆の中で示したものと類似している (̄)。 ここでは新渡戸の妻が気付き、その解釈をし、「妻が大いに日本通を振廻した」点が強調されている。 日本の婦人のたしなみとされている喜怒哀楽を妄りに外に表さないという理由だけではなく、 この解釈はラフカディオ・ハ 笑顔の 死 んだ自 1 意味

それはともかく、次にこれらの原話になったと思われる話を、 芥川の「手巾」と比較してみよう。

\mathcal{H} 手巾」 との比較

表 1 は 世 一渡り \mathcal{O} 道 の 記述と、 雑誌 『ニコ ニコ に載 った談話、 そして「手巾」 の違いを記した一 覧表である。

表 1 比 |較対照

項目	『世渡の道』	雑誌『ニコニコ』	「手巾」
場所	不明	北海道の新渡戸宅	新渡戸宅(東京か?)
時間	不明	北海道農学校に居た頃	日の長い初夏の午後
手巾を持っていた人物	日本婦人	日本の婦人	西山憲一郎の母(西山篤子)
手巾を見た人物	甲婦人 (西洋人)	新渡戸稲造の妻(アメリカ人)	東京帝国法科大学教授・長谷川謹造

背景である思想	辿り着いた結論し得るものではないついて大いに考えてみる必要がは、先生を、攪さ	感心した人物 甲婦人と、新渡戸稲造 新渡戸稲造の妻と、新渡戸稲造 なし	非難した人物	子の死を語る時の表情 笑っていたが眼には涙が ニコニコ顔 口角には
武士道		なし	なし	口角には微笑

・場所と時間

になる。 が、 れ ない。 この表からわかるように、「手巾」では、『世渡りの道』では示されていない場所と時間が示されている。 初夏の話として設定されているのが注目される。 通常、 岐阜提灯はお盆に用いられることが多いからだ。「手巾」は初夏のそれもお盆の時期の話という設定 岐阜提灯や、 朝鮮団扇というのは、 それを強調するものか に時

を現代へと移行していることになる。作中に表れる当時、 巾 の話と思われる。 他方、 が新渡戸稲造をモデルとしていることは先行研究でも明らかにされている。とすれば、「手巾」 雑誌 『ニコニコ』では、 ということはまだ『武士道』(一八九九年アメリカで刊行)を発表する前の話と推察できる。 札幌農学校時代と言うから、 非常に流行していたものだからだ。 本来この話は、 一八九一年から遅くとも一八九七年 はこの話の時

それに加え、「手巾」 冒頭にある「東京帝国法科大学教授」とあるのも新渡戸をモデルとした「長谷川謹造」を現代の新渡戸の姿を描 が書かれた時、 新渡戸は第一高等学校の校長と東京帝国大学農科大学を兼務していた。

くため

の一つの仕掛けかもしれない。

対して、「手巾」はあくまでも現代物として表現しようとする意図がはっきりと見えるのである. とがわかる。 ともあれ、 それまでの芥川作品は説話に由来するものであったから、 原話と思われる話では、 過去の話であったものを、「手巾」 時代はかなり昔の話として語られた。 は現在の もの へと時間 を移行させているこ

・手巾を持っていた人物

当時名刺を持っている女性がどのような人なのか、 る。それに「四十恰好の婦人」という年齢に関する描写もある。さらには、「小さな名刺」を持っている人物である。 これはいずれも日本の婦人であるが、「手巾」だけには、「西山篤子」という固有名詞が与えられている点が異な それは当たり前のことだったのかはわからないが、 一応指摘して

巾」では、初対面という設定になっている。 あと、表には書けなかったが、 原話と思わ れる記述では、 新 渡戸とこの 日本婦 人は既 知の仲であった。 だが 手

手巾を見た人

ここは子の死を語っている際に、 婦人が握りしめていた手巾を誰が見たかを比較してみる。

『世渡りの道』では、「甲婦人」が発見している。ここではその手巾がおそらく日本婦人の涙で濡れていた点

が注目される。 絞っていたとしている。そうした一連の仕草を、新渡戸を含む他の同席者は見逃していたように書かれている 雑誌 『ニコニコ』では、新渡戸や同席した欧羅巴の婦人たちが気付かなかった日本婦人の両手に固く握られ 口には微笑みをたたえ、言葉は爽やかではあったが、 眼からは涙が溢れ、 時折それを手巾で拭って、 た手巾

で」と言うように感心してもいる。 を見たのは、 ている。 新渡戸の妻である。 新渡戸はまったく気付いていなかったのである。 新渡戸は「談話の法へ気を取られて顔ばかり見て居たので手迄は注意しなか 日本婦人の手巾を見付けた婦 「流石は

それに対し「手巾」では、長谷川が朝鮮団扇を落とした際にテーブルの下から覗いた時に、 偶然気が付 たという

受けるような設定になっているのだ。「手巾」内ではそれを「発見」としている点も興味深い。 設定になっている。この点も「手巾」による改変と思われる。長谷川自身が直接見る事によって、 より大きな衝撃を

- ・子の死を語る時の表情
- いたと思われる点が、 これは少し先にも触れたが、 他の二つと大きく異なる点である。 『世渡りの道』 では、 顔は笑っていたが、 眼からは涙が溢れ、 手巾はその涙で濡
- ・非難した人物

態度を示したという。「手巾」にはこうした西洋人は出てこない。そもそも物語では長谷部が一人でいる設定になっ 極力少なくしている節がある。 ているからである。 コニコ』ではそこに居合わせた西洋人、それも欧羅巴人の婦人二三人が皆「吾々欧羅巴人には了解出来ない」という 『世渡りの道』では、「乙婦人」という西洋人が理解しかねると激しい口調で非難している。それに対し、 他は西洋人の来客中に起こったことなので、そこに大きな差が見られる。「手巾」 は登場人物を 雑誌

- ・感心した人物
- もやした雰囲気を作り出している。 心」はしていない。長谷部はその姿に大いに驚き、戸惑うことになる。この戸惑いがこの箇所以降の「手巾」のもや つまり、「手巾」を見た人物や聞いた人物が感心するのである。「手巾」の場合は、「発見」があるだけであり、

日本婦人の振る舞いに感心した人物は、手巾を見た人物であり、それを教えてもらった新渡戸稲造の二人である。

・辿り着いた結論

は、「日本人もニコニコということについて大いに考えてみる必要がある」という結論に達していた。 して長く自分を隠し得るものではない」という事をリンカーンの言葉を引きながら述べていた。 結局、 それぞれの挿話や談話、 小説が辿り着いた結論は、 表1に示した通りである。『世渡りの道』では 雑誌 『ニコニコ』 これらのきっ

かけとなったのが、 日本婦人の振る舞いだったのである。 V ず れも結 論 は 明 確だ。

形になっている。 攪さうとする何物かがある。 それに対して、「手巾」 今まで信じて疑わなかった物が崩れてしまう、そんな危機感さえ感じさせる描写になっている。 は 今、 武士道と、 読んだ所からうけとつた暗示 さうしてその型と・・・」 の中には とあり、 長谷川に何かモヤモヤしたものを残した 先生の 湯上りの Ó んびりした心もちを、

である。したがって、両者の背後には共に「ニコニコ主義」がある。 コして暮らそうというものである。 『世渡りの道』には「ニコニコ主義の世渡り」という項目がある。 雑誌『ニコニコ』 はこの 「ニコニコ主義」を鼓吹するために発行されていた雑誌 どんな時でも怒らずに気概を持ちながら = コ

背景にある思想

それに対して「手巾」の方は、 明確に 「武士道」 が長谷部の信条であると記されている。

は、 6 或 士道によつて、 て、 が る所があるばかりではない。 現代に於ける思想家の急務として、この堕落を救済する途を講ずるのには、どうしたらいゝのであらうか。 東西 は国 先生の これを日本固有の武士道による外はないと論断した。 目せらるべきものでない。 際間 神 両 一的には、 信ずる所によると、 洋 0 \mathcal{O} 平 間に横はる橋梁にならうと思ってゐる。(こ) -和も、 現代日本の思潮に帰趣を知らしめる事が出来るならば、 殆、 これ これと云ふ程の進歩も認める事が出来ない。 から促進されると云ふ事があるであらう。 惹いては、 日本の文明は、 却てその中には、 欧米各国民と日本国民との相互の理解を容易にすると云ふ利 最近五十年間に、 欧米各国の基督教的精神と、 武士道なるものは、 物質的方面では、 否 それ - 先生は、 寧、 は、 或意味では、 決して偏狭なる島国 日頃から、この意味に於て、 独り日本の 致すべきものさへある。 可成顕著な進歩を示してゐる。 堕落してゐる。 精神 的 民の道 文明に貢献 益がある。 徳を以 先生 自

う人物、 わけではない。 るのかもしれない。 川がこの作品で「ニコニコ主義」 ではなく、「ニコニコ主義」も大きな運動となっていたことをここでは付記しておきたい(『四) まさに新渡戸稲造の もう少し広げて言えば、 ここではこれ以上の解釈や推測はせず、 あるいは、新渡戸の様に国際派という人々の内実を少しだけ暴露しようとしている可能性もない 『武士道』 を揶揄しているとも思えない。ここでは、 何か確固たる主義主張を信じて疑わない人物に対して、 の内容を端的に述べた箇所となっている(三)。ただ、 指摘だけにとどめておく。 やはり長谷川謹造こと、 大正期には『武士道』だけ 芥川は揺さぶりをかけてい だからと言って、芥 新渡戸稲造とい

おわりに

の結果明らかになったことは以下の通りである。 本稿では芥川龍之介「手巾」の原話となったと思われる記述を二点紹介し、それらを「手巾」と比較してみた。そ

- この話を芥川に教えたという久米正雄や、芥川自身が、 コ』を読んだかどうかは判定できない。ただし、従来一番近いとされてきた『世渡りの道』よりも、 の方により詳細な記述があることは明らかだ。 今回原話と思われるとした『世渡りの道』や雑誌 雑誌 **『**ニュ 『ニコニ
- ・「手巾」では、 年以上前の話であることが明らかになった。 出来事の時 '期や時間がわかるような設定になっている。 また原話は 「手巾」 が書かれたおよそ二〇
- 原話 造が ぼ 日本人の姿に戸惑いを覚える作りになっている。 西洋人が日本の婦人を見て非難したり、 感心したりする話であるが、 「手巾」では日本人である長谷部
- 雑誌 『ニコニコ』では新渡戸稲造の妻が大きな役割をしているが、 「手巾」では物語に登場するものの、 それ にほど

大きな役割をしているわけではない。

推察される。 手 山 は何ら が の思想を揶揄するというよりは、 長谷川に代表されるような人物を揶揄する物語になってい ・ると

実である。 したのだが、 本稿はおそらく無視されるだろう。 こうした作業がどれほど学術の発展に寄与できるものなのか、 たいて いの場合、そうした努力は他分野から無視される傾向にあるからだ。 筆者は文化研究、とりわけ雑誌 筆者には正直わからない。 の研究者という立場から本稿を執 残念なことだが、 特に文学研究にお それ が現 て

なわち Johan August Strindberg の 認 しておきたい。 それはともかく、 『日本国語大辞典 今回は手巾に関するエピソードの原話を探ってみたが、 「作劇術」が鍵になっている。彼がどんな人物か、今後の研究のためにも辞書で (第二版)』 には次のようにある。 この作品では「ストリントベルク」、 す

スウェ 0 白 \exists] 戱 口 曲 - デンの劇作家、 ッパの矛盾と苦悩を追究。イプセンと並ぶ北欧の代表的作家。 「令嬢ジュリー」「ダマスクスへ」「死の舞踏」など。(一八四九~一九一二)(一五 小説家。 強烈な個性の持ち主で生涯を通じて恋愛と思想的動揺を繰り返 代表作に、 小説 「赤い部屋」 九世紀 痴 人の 末

もう一つ見ておこう。『デジタル大辞泉』の記述である。

ともに近代演劇の [1849 - 1912]スウェー 先駆 者。 ーデン 小 の 説 劇作家 赤 1 ・小説家。 部屋」「痴人の告白」、 赤裸々な人間像を描く自然主義的な作品を書いた。 戯曲「父」「令嬢ジュリー」「ダマスクスへ」「死 イプセンと

舞踏」など。(1次)

な 0 で カコ 側 在する。そんな「過去」と「現在」、つまりは では型にこだわる役者、 起こる違和感であり、 た人物である。 東洋」の両洋の軸はよく指摘されるが、 あり、 ~つ ともあれ、 いだろうか か、 間で一瞬、 の人間として自己認識をしているが、実は「旧」派の人間ではないのか、そんな不安が頭をよぎった瞬間ではな 「ストリントベルク」の作劇術を観た際に感じた。そこには、 いはどう映ったのだろう。それが気になる。 これらの記述からわかるように、 たか。それは長谷川だけではない。 あるいは 朝鮮団 揺曳、 今後も雑誌 こ の 旧 扇 逡巡する長谷川の姿がこの作品には垣間見られる。 「自然主義」、「近代演劇」 であるのではないか。 疑念であろう。 に位置する者なのか、といったアイデンティティの揺らぎに起因する「不安」であったのでは 五代目・尾上梅幸が代表とされている)と、 彼はイプセンと並ぶ、 あの婦人の振る舞いを素直に受け入れた時には感じなかった違和感を、 の性質や特徴を明確化する作業を進めていきたいと考えているし、 彼が身上としている「武士道」 新旧 小説の最後に長谷部を襲う「不安」はこの自らが果して「新」 の対比はあまり指摘されていないようだ(1七)。 長谷川謹造が感じた違和感は自分の信条とは違うものに出会っ 「新旧の対比」が隠されているのではないか。 から見た新渡戸稲造の思想、 近代演劇の先駆者であり、 近代以前の歌舞伎を代表とする 自然主義を中心とする近代作劇法 も同じである。「新」のようで実は その道具立てとなっているのが、「岐阜提 ないしはこの 自然主義的な戯曲を多くもの 手 長谷川はもちろん「新 本作品では「西洋」と ர் 型 \mathcal{O} 日 の [本婦 もしそこに 演劇 0 旧。 に属する 違 人の 長谷 た時 作品 が 振 灯 存

何 カコ の原話となるものがあれば積極的に紹介していきたいと考えている。

- $\overline{}$ 関口安義 庄司達也編 『芥川龍之介全作品事典』 勉誠出版、 二〇〇〇年、 四五八頁。 長沼光彦執筆担
- (二) 同前、四五九~四六○頁
- \equiv 二四巻、 代表的なものに、 (『芥川龍之介研究』第一三号、 徳島大学総合科学部、 田島俊郎 「芥川龍之介の『手巾』あるいは朝鮮団扇が顕わにするもの」(『言語文化研究』 芥川龍之介研究編集委員会、二〇一九年)などがある。 二〇一九年)や、 謝銀萍「芥川龍之介『手巾』論―岐阜提灯を視座として―」 第
- 五 四 久米正雄 県立女子短期大学、 代表的なものとして、下野孝文「『微笑』と『型』―芥川龍之介『手巾』論―」(『研究紀要』 ン』という翻訳言語)(『上智大学国文学論集』第五四号、 『二階堂放話』新英社、 一九九七年)や、木村素子「芥川龍之介『手巾』 一九三五年、 三一三頁。 上智大学国文学会、二〇二一年)が挙げられる。 論:『型(マニイル』・『臭味(メツツへ 第四五号、 長崎
- (六) らは 相川氏も記されているように、これらの指摘はそれまでにはなされていなかったようであり、したがってこれ 相川直之「芥川龍之介『手巾』 100二年。 相川氏による発見であると言えよう。 相川氏は他に『帰雁の蘆』 論-新渡戸 (弘道館、 稲造の影響―」『近代文学試論』 一九〇七年) の影響についても、 広島大学近代文学研 稿中で指摘されてい 究会、
- 七 新渡戸 稲造 『世渡りの道』 実業之日本社、 九一二年、 二七九~二八〇
- 八 新渡戸 稲造 日 本人のニコニコ 振 (中)」 ニコニコ倶楽部編 第二四号、 九一三年二月、一〇頁。
- (九) 同前、一一頁。
- (一〇) 同前、一一~一二頁
- (一一) ハーンは次のように書いている。

『全集』、二六六~二七七頁

ず、このようなことをお伝えいたしますことを、お許しください」という内容なのである。 私は長いこと理解できなかった。 オ・ハーン、池田雅之訳 が起こったとお思いになりましても、どうぞ、お気を煩わせませんようお願いいたします。 の表現なのである。この笑いが意味しているのは、「あなた様におかれましては、私どもに不幸な出 愛する人を亡くしたばかりの人が、私にそう告げるとき、どうして笑い声を立てることができるのか、 2 新編 しかしこの笑いは、自己を押し殺しても礼節を守ろうとする、 日本の面影』角川文庫、二〇〇〇年、三一一~三一二頁)。 失礼をも顧み (ラフカディ

教師の見た明治社会』 また、C.ムンチンガーも同じようなエピソードを残している(C.ムンチンガー、生熊文訳『ドイツ宣 新人物往来社、一九八七年、一〇四頁など)。

- 当時の「武士道」ブームについては、竹内里欧
- 四 「ニコニコ主義」など当時の動向については、拙稿「『笑う写真』の誕生―雑誌『ニコニコ』の役割 本研究』第六一号(国際日本文化研究センター、二〇二〇年)を参照されたい。ちなみに「ニコニコ主義 のメカニズム―」『京都社会学年報』第一七号、京都社会学年報編集委員会、二〇〇九年に詳

『手巾』と『武士道』ブーム―

〈擬・普遍〉

主義的主体化

(二 五 『日本国語大辞典(第二版)』 Japan Knowledge Lib

を鼓吹しようとしていたのは、

当時不動貯金銀行の頭取をしていた牧野元次郎という人物であった。

『デジタル大辞泉』Japan Knowledge Lib,

二六

竹内里欧「『手巾』と『武士道』ブーム― 七号(京都社会学年報編集委員会、二〇〇九年)には次のような指摘がある。 〈擬-一普遍〉 主義的主体化のメカニズム―」『京都社会学年報』 第

が頻繁に指摘されている。 の短編にかんしては、伝統と近代の調和への不安や、帝国主義 しかし、小説の最後に主人公が陥る不安感が何に「由来」するものか深く追求 へ の 批判などということ

したものは少ない。(三八頁)

<u>一</u>八

前掲竹内論文では、この長谷部の「不安」は、「〈擬―普遍〉主義的主体化」に起因するものだとしている。

The Origine of the "Hankachi" written by Ryunosuke Akutagawa

IWAI Shigeki

Ryunosuke Akutagawa's "Hankechi" is a work published in the magazine "Chuokoron" in 1916. Various things have been said about this work, some of which discuss its influence with Inazo Nitobe. In this article, I pointed out that Nitobe Inazo's discourse, which was thought to be the original story, was published in the magazine "Nico-Nico", and then carefully compare how "Hankechi" differs from the original story. Through this kind of work, I would like to shed some light on the creative methods of Akutagawa's early works, and at the same time consider the themes that Akutagawa wanted to express in "Hankechi". This is not only a part of Akutagawa's research, but also a study of the magazine "Nico-Nico" which has been the subject of my research for many years.

Keywords; The magazine "Nico-Nico", Ryunosuke Akutagawa, "Hankechi", Inazo Nitobe, The magazine "Chuo-koron"